

徳島市立2年ぶりV

6-1 鳴門 後半力尽きる



徳島市立対鳴門 後半23分、徳島市立の山本⑥が得点し4-1とする—徳島市球技場（秋月悠撮影）

全国高校サッカー 徳島大会

最終日

サッカーの第95回全国高校選手権徳島大会最終日は12日、徳島市球技場で決勝が行われ、徳島市立が6-1で鳴門に大勝して2年ぶりに優勝し、16度目の全国選手権（12

徳島市立は前線の4人が6得点し、破壊力を見せつけた。前半30分ごろまではMF郡の直接FKやFW水田のシュートがポストに嫌われるなど、もどかしい時間が続いた。

それでも「焦ることはなかった」と振り返るのはFW山本。31分、こぼれ球に反応して先制点を挙げた。暗雲が取り払われ、38分にはFW小延が2点目を挙げた。

FWの3人と郡がパス交換し、相手の守りを崩すのが徳島市立の攻撃パターン。後半、相手の動きが止まると4人のプレイングが一層、際立った。10分にDF高畑が左サイドからゴール前にクロスを入れて水田が流し込んだ。終盤にもサイドから攻

▽決勝

徳島市立 6-2 0-1 鳴門

▽得点者（徳）山本⑥、小延②、水田⑥（鳴）坂本

月30日開幕・東京駒沢オリンピック公園総合運動場ほか）出場を決めた。組み合わせ抽選会は11月21日に東京都内で行われる。

【評】徳島市立は攻撃陣が好調で、効果的に得点した。前半31分、山本がゴール前で味方のシュートのこぼれ球を押し込んで先制。7分後、高畑の右サイドからのクロス

徳島市立

前線4人 破壊力発揮 パス交換で相手守備崩す

めて郡が5点目、小延が6点目を奪った。4人はいずれも昨年の決勝に出場し、鳴門に0-1で惜敗。決定力不足が敗因だった。全国でも通用する攻撃力をつけるため、パスやシュートの精度を高め、2年ぶりの栄冠を勝ち取った。

全国選手権までに大学受験がある選手がおり、全員での調整が難しい事情もある。そんな中、一昨年にただ一人、全国選手権のピッチを経験している3年生の郡は「自分が経験していることをみんなに伝えたい」と頼もしい。本番までの少ない時間を無駄にせず、プリンスリーグの試合など実戦でさらにチーム力アップを図り、全国に挑む。

（藤島慶祐）

【鳴門】

尾崎岡本島根藤野口本

長島藤重金曾近南山山坂14032

GK DF MF FW KISHI

野田本野畑松瀬 田延本40622

佐原橋上高赤吉 水小山

【市立】

▽交代（市）小原（赤松）玉川

（山本）吉田翔（原田）関（水

田）長谷原（橋本）【鳴】本田

（山口）笠原（山本）川島（曾

根）

を水田がつなぎ、小延が2点目を奪って主導権を握った。後半もパスをつなぎ、10分に水田、23分に山本が決めて突き放した。鳴門は後半1分に坂

本のシュートで1点差としたが、後半は体力が尽きた。